



カジュアルウィーク初日の教室内。生徒たちは私服や制服、体操着と自由な服装で授業を受けた（5日、国立市立国立第三中学校で）

国立第三中 試験実施

制服か、それとも私服か。国立市立国立第三中では、私服での登校を期間限定で認める試験的な取り組みが行われている。生徒会が主導し、5・5・9日の5日間、生徒たちは自分が選んだ服装で登校できるというものだ。教員らは「生徒の自主性向上につながってくれば」と期待を寄せる。

（高田悠介）

学校 自由な服でGO

生徒会がルール ■ 自主性向上期待

「今日からカジュアルウィークが始まります。みなさん、ぜひ私服で登校してみてください」

5日朝の全校生徒が集まる朝礼で、生徒会長の沼田夏輝さん（3年）は、紺色の七分丈Tシャツにジーンズ姿でそう呼びかけた。

沼田さんは生徒会は7月中旬、同校の山口茂校長（60）から試験的な私服登校の提案を受けた。生徒会は、私服でも登校できる取り組みを期間限定で行うことを決め、ルール作りに着手。急ピッチで会議を重ね、「露出が多すぎないこと」「下着が見えない、透けないこと」というルールを定めた。肌の露出やスカートとスポンの丈は、制服や体操着を基準とした。

2学期が始まった8月29日、カジュアルウィークを実施することや今回設定した私服のルールを記載したプリントを校内に配布。初日となった5日には、制服や以前から認められていた体操着姿と同じくらいの生

登校スタイル 多様化進む 都内公立中

都内の公立中学校では、すでに私服登校を取り入れている学校もある。

練馬区立石神井西中では、1998年度から服装を自由化。卒業式や入学式などの行事の際には正装を求めるが、平時の服装に明確な制限はない。

杉並区では、全23校のうち、9校で私服登校が認められている。中には、昭和20年代の設立時から私服登校の中学校も。同区教委の担当者は私服登校の利点について、「TPOを考える習慣づけになる」と

話した。

一方、公立中学校の制服も近年、多様化が進んでいる。

中野区では、区立中学校に入学前の女子児童が区長に直談判したことをきっかけに、2019年度から女子生徒のラックス着用が認められた。現在は、区内全9校でスカートかラックスを選ぶことができる。

世田谷区も同年度から選択制を導入。国立市内の全3校も20年度から選択できるようになった。

徒が、Tシャツやジーンズといった思い思いの私服姿で登校した。

沼田さんは「私服を強制したわけではなく、自由に選択できる雰囲気になり、よかったと思う」と笑顔。生徒会副会長の両角穂乃花さん（3年）も「事前に『どんな服なら良いの?』と質

問してくれた友だちも多く、みんながちゃんと考えてくれたことがうれしい」と話した。

今回は試験的な実施で、生徒会では今後、全校生徒に感想や意見などを尋ねるアンケート調査を検討しているという。山口校長は「大人から押しつけられるのではなく、制服と私服の善しあしを生徒自身が考える良い機会。保護者の評判も聞きつつ、今後どのようにするか、生徒一人ひとりが考えてみてほしい」と話している。